

我が県土
支え育む
希望郷



美しい 県土づくりNEWS

2021年

12月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第209号
令和3年12月28日発行
編集 県土整備企画室



目次

- 2 三陸沿岸道路が全線開通！！
- 4 東北自動車道平泉スマートインターチェンジ開通！
- 6 一般国道340号今泉大橋工区が全線開通しました！
- 8 (仮称)小倉山4号トンネルの貫通式を開催しました！
- 9 一般県道ゆだ錦秋湖停車場線岩滑橋工区が全線開通しました！
- 10 釜石港地震・津波防災訓練を実施しました
- 11 県内寄港再々開！「にっぽん丸」宮古港寄港！！
- 12 小学生(船越小学校5学年)を対象とした「土砂災害と津波の出前講座」を開催しました！
- 13 第19回岩手「道の駅」スタンプラリーが始まりました！

～東日本大震災津波から10年～

三陸沿岸道路全線開通！！

東日本大震災津波からの復興のリーディングプロジェクトとして、国が復興道路としてかつてないスピードで整備を進めてきた三陸沿岸道路が、12月18日(土)15時の「普代～久慈」間の25kmの開通により、全線開通しました。

今回の開通により、宮城県仙台市から青森県八戸市までの359kmが自動車専用道路で結ばれ、国の復興支援道路として整備された東北横断自動車道釜石秋田線や宮古盛岡横断道路と一体となって、岩手県の縦軸、横軸を構成する新たな高規格道路ネットワークが構築されました。



提供：三陸国道事務所

東日本大震災津波から10年 三陸沿岸道路が全線開通！！

道路建設課

令和3年12月18日（土）、久慈市にて、復興のリーディングプロジェクトとして国が整備を進めてきた三陸沿岸道路「普代～久慈」間の開通式が国、県、久慈市、野田村、普代村の共催で開催されました。

式典には、斉藤 国土交通大臣、西銘 復興大臣、鈴木 財務大臣、達増 知事、遠藤 久慈市長、小田 野田村長、榎谷 普代村長、県選出国會議員、県議會議員などの関係者が出席しました。

冒頭挨拶で達増知事は「岩手の沿岸・三陸が一つに結ばれ、沿岸・三陸と内陸も結びついて一つになり、一つになった岩手県が日本各地や世界とつながっていくことは、**岩手県政において歴史的な出来事であります。**」と述べました。

主催者挨拶、来賓祝辞の後、テープカット及びくす玉開き、通り初めが行われました。



挨拶 斉藤 国土交通大臣



挨拶 達増 知事



挨拶 遠藤 久慈市長



挨拶 小田 野田村長



祝辞 鈴木 財務大臣



祝辞 西銘 復興大臣



祝辞 大島 三陸地区国道協議会顧問



お礼の言葉 榎谷 普代村長



通り初め

※写真は三陸国道事務所提供



これまでの復興道路、復興支援道路の整備により、**企業立地や県内港湾のコンテナ取扱貨物量の増加など、大きな波及効果が現れている**ところですが、今回の全線開通は、こうした物流面での効果はもとより、**観光、救急医療、防災など、様々な面でなお一層の効果を発揮し、三陸沿岸地域全体の復興を力強く後押ししていくことが期待**されます。

○開通を記念したイベントの開催

今回の三陸沿岸道路の全線開通を記念し、**12月11日(土)**に県北広域振興局土木部と野田村の主催で**開通プレイベント**を開催し、約100名の県民の皆様**に「下安家トンネル」、「下安家大橋」を歩いていただきました**。三陸沿岸道路を歩ける**最後の機会**であり、イベントの参加者からは、「今回の開通で更に道路が便利になる」「橋から見える景色に感動した」など様々な御感想をいただきました。



三陸鉄道に手を振る様子



ウォーキングイベントの様子



記念撮影

東北自動車道 平泉スマートインターチェンジ開通！

道路建設課

令和3年12月4日(土)、「東北自動車道平泉スマートインターチェンジ」が開通しました。現地では、平泉町主催により開通式が執り行われ、青木平泉町長の挨拶の後、共同事業者である東日本高速道路株式会社（以下、「ネクスコ東日本」という。）の八木東北支社長が挨拶したほか、来賓として、達増知事や地元選出国會議員が祝辞を述べ、本スマートインターチェンジの開通を祝いました。



平泉町 青木町長



ネクスコ東日本 八木東北支社長



岩手県 達増知事



テープカット、くす玉開きにより開通を祝いました。

開通にあたり、ネクスコ東日本の公募により選ばれた5台の車を先頭にして、15時に料金所ゲートが上がり、開通を待ちかねた車が続々と東北自動車道へ入っていきました。



開通を待ちわびた住民、待機車両の状況

○平泉スマートインターチェンジの整備効果

- (1) 観光客の利便性向上による観光業の振興
「平泉の文化遺産」へのアクセス性が向上されることにより、国内外から多くの観光客が訪れるなど、観光業の振興に資するものと期待されます。
- (2) 観光期の渋滞緩和
平泉町内には、多くの史跡・名所が点在し、その観光ルートを形成する国道4号は自動車交通が増大し、特に「春の藤原まつり」等の観光交通集中期には著しい渋滞が発生しているため、一関ICや平泉前沢ICからの観光客の交通を分散させ、国道4号の渋滞緩和に資するものと期待されます。
- (3) 物流の効率化による地域産業の活性化
平泉町中心部に近い平泉高田前工業団地の企業の生産性向上が期待されるほか、同工業団地内への新たな企業誘致を促進することが期待されます。



○スマートインターチェンジとは

高速道路の本線サービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができるように設置されるインターチェンジで、通行可能な車両（料金の支払方法）をETC搭載車両に限定しているインターチェンジです。

県内では、すでに3か所のスマートインターチェンジが開通しているほか、現在、花巻パーキングエリアに整備を進めています。

○メリット

- ・ 利用車両が限定されているため、簡易な料金所の設置で済むなど、従来のインターチェンジに比べ低コストで導入できる。
- ・ 地域活性化、既設インターチェンジ周辺道路の安全かつ円滑な交通の確保、インターチェンジアkses時間の改善、災害時の一般道路区間の代替など様々な効果が期待されます。

【まちづくり連携道路】

一般国道340号 今泉大橋工区が全線開通しました！

～ 未来への県土づくりへ「つなぐ」復興の架け橋 ～

沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター

県が「まちづくり連携道路事業」として整備を進めている一般国道340号今泉大橋工区について、今泉大橋（280.3m）を含む、延長L=2,600mが令和3年11月29日（月）に全線開通しましたので、お知らせします。

今回の開通により、東日本大震災津波の浸水区域を回避し、災害時等における確実な緊急輸送機能を確保するほか、一般国道45号から三陸沿岸道路（陸前高田IC）間のアクセス性向上による観光・産業振興が促進されることにより、三陸沿岸地域の復興を力強く後押しすることが期待されます。

【今泉大橋工区 全景写真】



【開通後の状況】



【事業概要図】



【整備効果】

- 東日本大震災津波の浸水地域を回避し、同規模の津波が発生した場合でも浸水しない道路を整備することにより、災害時等における確実な緊急輸送機能を確保
- 国道45号～三陸沿岸道路（陸前高田IC）間のアクセス性向上による観光・産業振興に寄与

【見える化の取組】



R2.8.18 橋名発表会 (in 高田第一中学校)



R3.3.3 橋名板取付けセレモニー



- 復興教育の一環として、陸前高田市立高田小学校及び気仙小学校を対象に現場見学会を開催。
- 床版の上に大好きな陸前高田市への想いを込めたメッセージ「We♥高田」の文字にペイント。
- 今泉大橋が将来に渡り、地域に未長く愛されるインフラとなることを期待しています！！

【主要地方道花巻大曲線 小倉山の2工区】

おぐらやま

（仮称）小倉山4号トンネルの貫通式を開催しました！

県南広域振興局土木部 花巻土木センター

岩手県が西和賀町沢内地内で整備を進めている主要地方道花巻大曲線「（仮称）小倉山4号トンネル」が無事貫通したことに伴い、工事受注者（佐藤工業（株）・菱和建設（株）・（株）佐藤組特定共同企業体）主催による貫通式を令和3年11月30日（火）に開催しました。

令和2年11月に安全祈願祭を開催してから、約1年での貫通となりました。

貫通式には、県、西和賀町、花巻市、地元選出県議会議員、工事関係者等約100名が出席したほか、地元保育園児や沢内さんさ踊り保存会の皆様が式典に駆けつけ、ダンスや演舞で貫通を祝っていただきました。

【貫通発破】



発破ボタンを押してついに貫通！
トンネル内に光が差し込みました

【樽神輿入場】



ワッショイの掛け声で樽神輿が入場
担ぎ手は施工業者の皆さんです

【地元保育園児によるダンス】



地元保育園児の皆さんが貫通のお祝いに
ダンスを披露してくださいました

【万歳三唱】



出席者全員による万歳三唱で
貫通を祝いました

工事はこれからも続きますが、一日も早い開通を目指し取り組んでいきます！！

きんしゅうこていしやじょうせん いわなめほし
一般県道ゆだ錦秋湖停車場線 岩滑橋工区
が全線開通しました！

県南広域振興局土木部 花巻土木センター

岩手県が西和賀町耳取地内で整備を進めていた一般県道ゆだ錦秋湖停車場線岩滑橋工区（L=600m）が、令和3年11月28日（日）に全線開通しました。

開通に先立ち、地域住民を対象とした開通セレモニーを開催し、約30人の出席のもと、地域の代表の方々に揮毫いただいた橋名板のお披露目や渡り初め、記念撮影を行い、新しい岩滑橋の完成を祝いました。

本事業は、現在の岩滑橋が昭和34年の架設で老朽化が進んでおり、幅員が狭く車両のすれ違いが困難となっているほか、同橋の前後区間も幅員狭小で安全で円滑な交通の支障となっていることから、新しい岩滑橋の架け替えと橋梁前後区間を必要な幅員が確保された道路に整備するものです。

本事業の完成により「迂回路のない道路の安全性・信頼性の向上」、「交通事故の危険性が減少し、安全・安心な生活道路としての機能向上」といった整備効果が期待されます。

【従前の岩滑橋】



【開通後の様子】



【開通セレモニーの様子】



【事業概要】





「津波防災の日」（11月5日）に因み、11月20日（土）、釜石港須賀地区岸壁とその周辺海域において、約100名の港湾関係者が参加する「釜石港地震・津波防災訓練（主催：東北地方整備局、共催：岩手県）」を実施しました。

本訓練は、東北6県持ち回りで重要港湾において行っており、釜石港港湾BCP（釜石港港湾機能継続計画）に基づく手順や災害協定に基づく航路啓開手順の確認など、訓練を通じて港湾関係機関との連携の強化と職員の防災対応能力の向上を図ることを目的に実施しました。

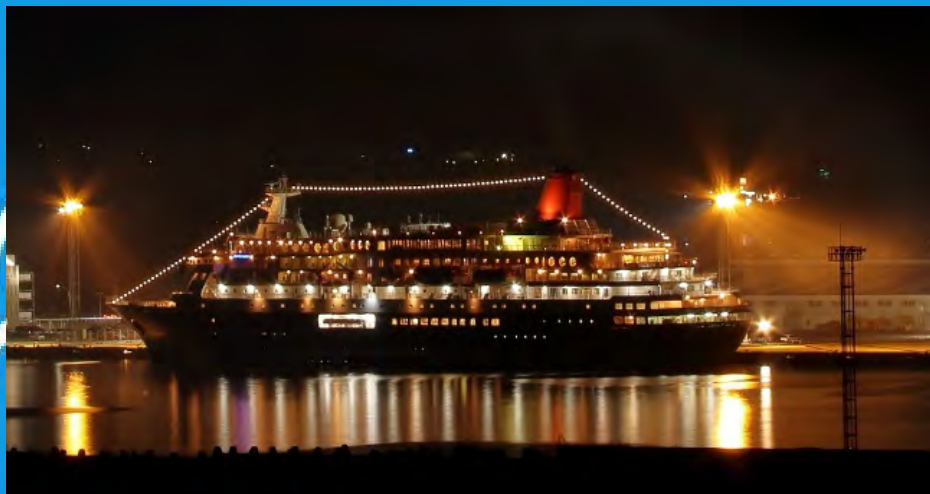
当日は野田釜石市長をはじめ、多くの来賓が見守る中、岩手県沖を震源とする地震により、震度6強を観測し、最大高さ6m以上の津波が来襲した想定のもと、災害対策本部の設置や被害状況確認・報告を行う初動対応訓練、航路に沈んでいる障害物の位置を把握する航路障害物調査訓練、水中の障害物撤去を行う航路啓開訓練を実施しました。



今後も訓練を重ね、有事の際には迅速な港湾機能の復旧を行い、地域全体の早期復旧に繋がられるよう、引き続き関係機関との連携強化と職員の災害対応能力の向上に努めていきます。

県内寄港再々開！ 「にっぽん丸」 宮古港寄港!!

港湾課



11月20日(土)、商船三井客船㈱が運航するクルーズ船「にっぽん丸(全長166.6m、総トン数22,472ト、乗客定員524人)」が宮古港に寄港しました。県内港湾へのクルーズ船寄港は、2021年4月に再開したものの、新型コロナウイルス感染再拡大の影響で2021年5月以降中止が続いており、約7か月ぶりの寄港受入となりました。

にっぽん丸は乗客170名を乗せて、午後4時に宮古港藤原岸壁に着岸しました。歓迎セレモニーでは、ミスさんさ・ミス太鼓が「盛岡さんさ踊り」を披露し、華やかに乗客を出迎えました。

今回のクルーズは宮古港初の1泊2日の停泊となり、乗客は、星空ウォッチングや朝日鑑賞など、1泊2日ならではのツアーのほか、三陸鉄道で浄土ヶ浜や北山崎を巡ったり、陸前高田市の東日本大震災津波伝承館を見学するなど、ゆっくりと三陸の旅を満喫していました。

翌日午後4時、丸一日の寄港を終え、神風宮古流星海による「よさこいソーラン」の演舞での見送りと共に、にっぽん丸は宮古港を出港しました。

県では、今後も港湾所在市や関係機関との連携により感染防止対策へ配慮しながら、コロナ禍においても安心・安全な寄港受入に努めていきます。



ミスさんさ・ミス太鼓による盛岡さんさ踊り



よさこいソーラン演舞によるお見送り



寄港当日に開催された宮古海上花火大会

小学生（船越小学校5学年）を対象とした「土砂災害と津波の出前講座」を開催しました！

沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター

宮古土木センターでは、山田町立船越小学校の5学年（14名）の防災学習の支援として、令和3年11月29日（月）に、自分たちの住む町のどんな場所に自然災害があるかを知り、命を守るために必要な知識を身に付けてもらうことを目的として「土砂災害と津波に関する出前講座」を開催しました。

出前講座では、教室で土砂災害と津波の授業を行った後、砂防や水門の工事現場、完成済みの防潮堤の陸閘（りっこう）施設の見学を行いました。

出前講座に参加した児童からは「学んだことをこれからの生活にいかしていきたい」「陸閘（りっこう）の開け方を学べてよかった」等の感想がありました。

宮古土木センターでは、今後も引き続き管内の小中学校での出前講座を計画していきます。

1 教室での授業

土砂災害及び津波のメカニズムや避難方法と注意点について動画を用いて説明しました。



2 現場見学



第19回 岩手「道の駅」スタンプラリーが始まりました！

～ 県内35の「道の駅」を巡ってみませんか ～

道路環境課

1 第19回 岩手「道の駅」スタンプラリー

12月15日(水)から第19回岩手「道の駅」スタンプラリーが始まりました！

本スタンプラリーは冬期の岩手の道の駅を「買い物で応援」するために始まったもので、今回で19回目の開催となります。

昨年は、約5千名の皆さまから御応募いただきました。

■道の駅「錦秋湖」について

国道107号の通行止に伴い物販・食堂施設は休業していますが、**トイレ・休憩施設は利用可能です。**

スタンプは「道の駅の休憩施設」又は「湯夢プラザ(西和賀町川尻 40-73-11: JR ほとと湯田駅向かい)」の2箇所に設置されていますので、**いずれかを御利用ください。**



第19回 岩手「道の駅」スタンプラリー

開催期間: 令和3年 12.15(水) ~ 令和4年 5.10(火)

応募締切: 2022年5月10日(火) ※当日消印有効

岩手県内の道の駅で、応募ハガキにスタンプを集めて応募すると、抽選で県内産品のスタンプ賞品が当たります。

完走賞 すべてのスタンプ35個で
10,000円相当の道の駅特産品等 **10名**

A賞 スタンプ20個以上 → 5,000円相当の道の駅特産品等 **15名**

B賞 スタンプ15個以上 → 4,000円相当の道の駅特産品等 **70名**

C賞 スタンプ10個以上 → 2,000円相当の道の駅商品券 **40名**

いーはとーぶ賞 スタンプ5個以上 → 1,000円相当の道の駅商品券 **40名**

主催: 岩手県「道の駅」連絡会
 岩手県道庁事務局 企画課 電話: 019-624-3196
 岩手県道庁事務局 企画課 電話: 0193-71-1718
 岩手県庁 企画課 電話: 019-624-3300
 岩手県庁 企画課 電話: 0195-29-1829
 協賛: 明治安田生命保険相互会社(全国道の駅連絡会特定賛助会員)

最新情報はこちら! 応募要項、イベント情報などもご覧いただけます。
www.thr.mlit.go.jp/iwate/stamprally/ 岩手県「道の駅」連絡会

■第19回岩手「道の駅」スタンプラリーの応募方法

- 開催期間 令和3年12月15日(水)～令和4年5月10日(火)
※応募締切 令和4年5月10日(火) 当日消印有効
- 応募方法 岩手県内の道の駅に置かれているスタンプ台紙(応募ハガキ)に各道の駅のスタンプを押印し、切手を貼って応募してください(応募は1人1回まで)。
※当選発表は賞品発送をもって代えさせていただきます。
- 各賞について

| | | |
|--------------|---|-----------------------------|
| スタンプ35個(全箇所) | → | 完走賞10名(10,000円相当の道の駅特産品) |
| スタンプ20個以上 | → | A賞15名(5,000円相当の道の駅特産品) |
| スタンプ15個以上 | → | B賞70名(4,000円相当の道の駅特産品) |
| スタンプ10個以上 | → | C賞40名(2,000円相当の道の駅商品券) |
| スタンプ5個以上 | → | いーはとーぶ賞40名(1,000円相当の道の駅商品券) |

★詳細は「岩手県「道の駅」連絡会」ホームページを御覧ください

http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/stamprally/2021_index.html

2 全線開通した三陸沿岸道路沿線の「道の駅」



仙台市から八戸市を結ぶ三陸沿岸道路は、令和3年12月18日に普代IC～久慈IC間が開通し、全線が開通しました。
 これにより、仙台⇄八戸間の移動時間が約3時間10分短縮され、災害時の移動経路の確保や地域産業の発展が期待されます。
岩手県内の三陸沿岸道路沿線には、道路利用者の休憩施設や地域の魅力を発信する場として9箇所の道の駅が整備されていますので、是非お立ち寄りください。

3 新型コロナウイルス感染拡大防止対策への御協力をお願い

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、道の駅来店時は「手指消毒」、「マスク着用」、「お買い物時の距離確保」等の感染拡大防止対策に御協力をお願いします。

【問合わせ先】

岩手県県土整備部道路環境課 維持グループ

電話：019-629-5880 FAX：019-629-9124 E-mail：AG0004@pref.iwate.jp